

第二十五回フォト句会優秀作品(24年12月10日)

<自由題>



闊歩する面目躍如

モガひとり 安藤晃二

寸評：銀座ティファニーの店頭を小さなおばあさんが堂々と歩いています。モダンガールで鳴らしたその昔を思い出して。

愛想だけポリスボックス

改善し 池田 隆

寸評：最近の交番は瀟洒な建物に
換わりつつあり、サービスは今い
ちだが、愛想だけはよくなった？



人知れず霜置く野辺の

薄化粧 中村 晃也

寸評：めっきり寒さが増し、高
原の野原にも霜が降りました。
写真は綺麗だが、句が説明的。

<句 付 け>

1 2月の御題写真



平成の広重気どり江戸百景

池田 隆

ブロンズの臀（でん）部逞し羨望す

安藤 晃二

放水の余韻楽しむローマ人

安藤 晃二

<寸 評>今月の写真は池田さん出題の、隅田川畔の銅像、大橋のかなたにスカイツリーが遠望されます。

池田さん：ご自分で撮影された画像ですから、銅像が誰であるか、広重気取りで撮影した場所がどこかお分かりになっています。第三者は背景を説明されると「なるほど」と言うほかありません。

安藤さん：銅像の主な詮索はさておいて、お尻の曲線に注目した句です。ご自分のその部分は、肉が落ちて情けない形になっていると言外に語っています。

安藤さん：訳の分からない画像に接すると、勝手な解釈がゆるされるので、俄然強みを発揮されるようです。隅田川に向かっての「放水の余韻を楽しむ」とかそれが「ローマ人」の銅像であるとか・・・。前句といい、この句といい、作者の関心は銅像の下半身に集中していることが見受けられます。